

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 26 日

札幌市立 あやめ野小学校

1 今年度の重点目標

子どもの声を聴く
----------

2 本年度の経営方針

子どもたちと職員の間顔を大切に作る学校
---------------------

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	豊かなこころをもち健康でたくましい実践力のある子ども	・自信をもって仲間とともに歩む子ども	A	今年度は「子どもが主役の学校」を目指し、自分たちで考え、仲間と協力して行事を創り上げる楽しさを実感することができた。一方で、「どう動けばいいのか」と不安を感じる場面も見られた。来年度は、みんなが安心して過ごせる「自分たちのルール」を子どもたちと一緒に考え、一人ひとりが「自分たちの手で学校をよくしている」という自信をもち、仲間と笑顔で歩んでいけるよう支援する。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・「自分たちのルールづくり」という具体策を通して児童の皆さんの主体的な意欲と態度が育まれると感じました。 ・子どもが主体となって行事に取り組んだことで、仲間と協力する楽しさや自信を感じる姿が見られた点は、大きな成果と感じる。来年度は安心して意見を出し合える環境を整えながら、子どもたち自身が学校をよりよくしていこうとする気持ちをさらに深めていく支援を期待する。				

「学ぶ力」の育成	自ら考えて動き、学ぶ楽しさを実感する子どもの育成	・AARサイクル ・本物の経験 ・札幌らしい学校教育	B	・教科担任制の導入やchromebookの活用により、90%以上の児童が主体的に学習に取り組んでいる。一方で、一律の宿題から自主学習への移行に関し、保護者との認識のずれが生じている。来年度は「家庭学習の手引」の作成や学びのプロセスの可視化などを通して家庭と連携し、自ら考え、学ぶ楽しさを実感する子どもの育成を図る。	A	A
「豊かな心」の育成	自分も他も大切にできる子どもの育成	・道徳教育の推進 ・いじめ防止の取組 ・自治的な活動 ・行事での取組	A	・子ども主体の行事運営により達成感や団結力が育まれたが、自由度の向上に伴い「安心して過ごせる」という回答が後期に減少した。来年度は、「自由だからこそ守るべきルール」を再構築し、生徒指導を「生徒参画」へと進化させるよう取り組む。 ・「いじめ防止対策会議」や「学びの支援交流会」を大切な児童理解の場とし、全職員で全児童を支援・指導し、安心・安全な仲間づくり・環境づくりに取り組む。	A	A
「健やかな体」の育成	進んで体を動かし、体力を高める子どもの育成	・外遊びの推奨 ・Active Day ・行事での活動	A	・ActiveDayや外遊びの推奨、運動会の種目の見直し、縄跳び大会の取組により、日常的に体を動かす習慣が定着し、体力テストでは全国平均を超える成果が得られた。一方で、意欲が高い層と苦手意識をもつ層の2極化が課題としてみられる。来年度は、個別サポートの充実や、家庭でも運動が話題となるような「楽しさの入り口」を広げる取り組みをする。	A	A
社会に開かれた教育課程	校種間連携 家庭、地域との連携・協同	・教育相談と個別面談 ・お便り・時間割・HPの新活用	B	・時間割のHP公開や子どもの活動の様子を発信することにより、「見える化」は進んだが、一律の宿題から自主学習への移行やルールの変更など「なぜそうするのか」という意図の共有が不足していた。今後は、子どもの安心・安全につながるSNSの活用や登下校の交通指導や見守り等、学校の教育方針に対する理解と協力を得るために家庭や地域とのコミュニケーションの充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・学校独自の取組がなされていて好意的に受け止めていただきたい。小規模校のストロングポイントを生かして今後も教職員の協力の下で頑張ってください。 ・5年生のみなさんと園との交流の機会を設けていただき攻守間連携を深めていただきました。年長児の学校生活への安心感にもつながる取組としてぜひ継続できればと思います。 ・今後も子どもたちが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる取組や前向きに体を動かすことができる環境づくりが進むことを望む。職員間での情報共有を大切にしながら、安心安全な学校づくりが一層進むことを期待する。 ・宿題が自主学習になったことで家庭での学習を難しく感じている家庭の話を時々聞きます。 ・交通安全について、小・中・地域で連携して見守りしてほしいと事務局から意見が出ています。				

学校独自に設定する分野	小中一貫した教育の推進 ・授業公開、意見交流する場の設定	A	・春の研究集会では、パートナー校の先生方に子どもたちの学ぶ姿や学校の様子を直接見ていただき、中学校を見据えた教育の在り方を共有する貴重な機会となった。今後も授業公開や意見交流を深め、9年間を見通した「学びのつながり」をより確かなものにしていく。	A	A
	安心できる居場所づくり ・あやめっ子活動 ・みんなでみんなを	B	・「あやめっ子活動」などを通じた異学年交流や自分たちで活動をつくる楽しさが広がり、笑顔で登校する子が増えた。今後も、「シャボテン・ログ」などの活用を継続しながら、一人ひとりの小さな変化に気づき、みんなでみんなを支え、温かい居場所づくりに努める。	A	A
	業務改善、働き方改革 ・自己裁量時間の増加 ・データの共有	B	・データの共有化や校内業務のスリム化、専科指導等により先生方が子どもたちと向き合う時間や授業の準備に充てる自己裁量時間を増やす工夫に努めた。教職員のゆとりは子どもたちの安心感にもつながる。来年度も、効率的な情報共有や業務の見直しを図り、教育活動に集中できる環境を整える。	A	A

学校関係者評価委員会による意見		・働き方改革、まだまだ進められると思います。この点も教員の負担が増えないよう頑張ってください。 ・毎年熱心に教育に取り組む校長先生および教職員の皆様に感謝いたしております。今後も変わらぬご指導期待しております。 ・教員の皆様の働き方改革は急務な課題と考えます。教育の質の向上にもつながる取組として充実されることを願います。 ・授業公開を通して児童の学ぶ姿を教習し、小中で教育の方向性を確認できたことは、大変良い取組であると思う。また、児童同士の交流や主体的な活動を通して、学校生活の楽しさが広がっていることは大変良いことだと思う。業務の見直しや工夫により、教職員が子どもと向き合う時間を大切にしようとしている点もとても評価できると思います。今後も無理のない働き方を意識しながら、教職員も安心して教育活動に取り組める環境づくりがさらに進むことを期待する。				
-----------------	--	---	--	--	--	--